

安全データシート

1. 化学品等及び会社情報

製品名	LIMUPIA F-128
会社名	株式会社アイフェス
住所	大阪府和泉市はつが野三丁目16番31号
電話番号	072-270-2001
緊急連絡電話番号	072-270-2001

2. 危険有害性の要約 GHS分類

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分2A

GHS ラベル要素 絵表示



注意喚起語 安全対策

警告

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 容器を密閉しておくこと。容器を接地しアースをとること。
 防爆型の【電気機器／換気装置／照明機器／機器】を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する措置を講ずること。
 ミスト／蒸気の吸入を避けること。
 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

応急措置

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
 保護手袋／保護眼鏡／保護面を着用すること。
 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。
 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。

保管

容器を密閉しておくこと。換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。施錠して保管すること。

廃棄

内容物／容器を承認された処理施設に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

単一物質

化学名又は一般名	含有率(%)	安衛法	化審法	CAS No.
Perfluorotributylamine	100	*	*	企業秘密

* の記載がある場合、番号は企業秘密

4. 応急措置

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。大量に吸入した場合や状態が良くない場合は直ちに医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水でよくすすぐこと。医師に相談すること。

眼に入った場合	顔を持ち上げ流水で最低20分はすすぐこと。コンタクトレンズは外す。状態が良くない場合は眼科医の診察を受けること。
飲み込んだ場合	温水で口をすすぎ、直ちに医師に相談する。嘔吐させないこと。暖かい状態で安静にすること。呼吸ができない場合は人工呼吸行うこと。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	11.を参照。
応急措置をする者の保護	救助者はゴム手袋、密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	症状に応じて適切な治療を行うこと。吸入、皮膚接触により反応が起こる可能性がある。遅延性。
5. 火災時の措置	
消火剤	適切な消火剤を選択すること。水噴射/耐アルコール泡/乾式消火剤推奨。粉/乾燥砂/二酸化炭素を使用して消火。
使ってはならない消火剤	固体ストリームノズルスプレーの使用を避けること。
特有の危険有害性	急激な熱に接触すると熱分解が起こり、一酸化炭素、二酸化炭素、フッ化水素が形成されます。
特有の消火方法	容器を火元から移動させる。発火源を可能な限り取り除く。風上から消火する。
消火を行う者の保護	安全な場所まで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。容器からガスが噴射した場合は炎により分解した有毒ガスを吸入しないようにすること。防毒マスクを使用すること。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	適切な保護具、手袋を着用すること。 十分に換気すること。 蒸気、煙、ガスを吸い込まないようにすること。
環境に対する注意事項	排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合：漏洩した液体は可能な限り、密閉容器に回収すること。 大量の場合：乾燥砂、土、おがくず、ウエスなどに吸収させて、専用の収容器に移し、回収、中和する。承認された処理場に廃棄すること。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	技術的対策
	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	安全取扱い注意事項
	換気フードの下で作業すること。蒸気の吸い込みを避けること。 火気、熱源から避けること。禁煙。 容器を接地し、アースをとること。 使用後は手を洗うこと。
	接触回避
	「10. 安定性及び反応性」を参照。
	衛生対策
	汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。 注意事項は2.を参照。
保管	安全な保管条件
	容器を密閉し、換気の良い場所に保管する。 湿気や水滴を避けること。 直射日光を避けること。熱や発火源から遠ざける。
	安全な容器包装材料
	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。ガラス。
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度、許容濃度	
	管理濃度
	データなし
	許容濃度
	データなし
設備対策	作業中は十分に換気すること。安全シャワーと洗浄設備を整えること。

保護具	呼吸用保護具	気化ガス/エアロゾル発生時に必要 次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。
	手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
	眼の保護具	NIOSH (US) またはEN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。保護眼鏡。
	皮膚及び身体の保護具	毒の浸透を防ぐ適切な保護具を着用すること。
	環境暴露の制御	物質が排水施設に流れ込まないようにする。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状	液体
色	無色透明
臭い	データなし
p H	データなし
融点/凝固点	データなし
沸点	データなし
引火点	>93℃
発火点	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
密度	1.7792 (20℃)
比重	データなし
水への溶解度	データなし
水の溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
臭いの閾値	データなし
蒸発速度	データなし
燃焼性	データなし
粘度	データなし
酸度	データなし
ODP	データなし
GWP	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	光により変質する恐れがある
危険有害反応可能性	通常の処理ではなし
避けるべき条件	高温、直射日光
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、ハロゲン化物、窒素酸化物

11. 有害性情報

急性毒性	経皮 データなし 吸入 LC ₅₀ (4h) >17mg/L 経口 LD ₅₀ >5000mg/kg
皮膚腐食性／刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2A
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	データなし
特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	データなし

誤えん有害性 データなし

1 2. 環境影響情報

生態急性毒性 データなし
 生態慢性毒性 データなし
 残留性・分解性 データなし
 生態蓄積性 データなし
 土壌中の移動性 データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 下水道に流さないこと。内容物及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。
 蒸留再生により産業廃棄物を大幅に削減できます。

1 4. 輸送上の注意

国際規制
 海上規制情報 該当しない。
 国連番号 国連危険物に該当しない。
 航空規制情報 該当しない。
 国内規制
 海上規制情報 該当しない。
 航空規制情報 該当しない。
 陸上規制情報 消防法の規定に準拠する。
 消防法 非危険物。
 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 輸送に関しては直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
 重量物を上積みしない。

1 5. 適用法令

消防法 非危険物
 労働安全衛生法 該当しない。
 化学物質排出把握管理促進法 該当しない。
 毒物劇物取締法 該当しない。

1 6. その他の情報

参考文献

- ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices
- HSDB® - Hazardous Substances Data Bank
- National Toxicology Program (NTP) Report on Carcinogens IARC発がん性評価モノグラフ
- 日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン、2019年6月
- 日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告
- JIS Z 7252:2019 GHS に基づく化学品の分類方法
- JIS Z 7253:2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示 及び安全データシート(SDS)

安全データシートは、危険有害な化学製品について安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱う事業者提供されるものです。混合物である製品の危険・有害性情報は、個々の原材料の危険・有害性情報から推定したものです。取扱う事業者は、これを参考として自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようにお願いします。
 従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。